

## 第 11 回 大阪市会・Osaka Metro・シティバス連絡会議：議事概要

- 1 開催日時 2025 年 9 月 8 日（月） 午後 1 時 00 分～午後 4 時 25 分
- 2 開催場所 大阪市役所 7 階 特別委員会室
- 3 出席者 都市経済委員会委員  
大阪維新の会：清水議員、たけち議員、佐竹議員、黒田議員、梅園議員、辻議員  
公 明 党：岸本議員、小山議員、杉田議員  
自 民 党：木下議員、淵上議員  
自国（くらし）：田中議員  
Osaka Metro  
河井代表取締役社長、堀常務取締役、木田常務取締役、土肥常務取締役、  
植村常務取締役、豆谷取締役、齋喜取締役  
大阪シティバス  
中村代表取締役社長  
都市交通局（オブザーバー）  
上溝局長、山野次長
- 4 座長 維新 わしみ議員（都市経済委員会委員長）
- 5 報告事項【議題】
  - （1）Osaka Metro Group 2024 年度決算、2025 年度事業計画、2025 年度第 1 四半期決算について
  - （2）いまざとライナー（B R T）社会実験について
  - （3）路線バスの小型化について
  - （4）サイネージ付きバス停の整備について
  - （5）8 月 13 日に発生した中央線の運行トラブルについて
- 6 主要なご意見（○：市会議員、●：Osaka Metro・大阪シティバス）

《大阪維新の会》

【清水議員】

（8 月 13 日に発生した中央線の運行トラブルについて）

○ 大阪・関西万博も閉会まで残り一か月となり、会場までの主要な交通機関を担う Osaka Metro として改善すべきことは改善し、会期末まで災害など更なる事情を踏まえ、安全・安心を一番に対応していただきたい。

（マイクロモビリティ(株)Luup との提携について）

○ マイクロモビリティについては、事故の多発や観光客含む利用客者のルール遵守、管理体制や罰則規定の法整備といった問題があると思う。(株)Luup は観光客をターゲットにシェア拡大を計画しているとの報道もあるが、多様な利用者への利用マナーの啓発といったことが大きな課題と考えている。これらの課題について、Osaka Metro としての見解と、今後の(株)Luup との業務提携の中でどのような対応を実行していくのか確認する。

● (株)Luup において、交通マナー啓発のほか、安全対策強化に向け、交通違反者に対してアカウント凍結の罰則を科す「交通違反点数制度」を警察と連携し実施しているほか、2025 年度から GPS で取得した利用者の移動経路データを用いて交通違反や危険走行をした利用者に、再発防止のた

めの警告やペナルティを科す制度を導入している。他にも交通ルールテストの強化及び全利用者への再受験義務化、進入禁止場所を事前にお知らせする誤進入防止サポート機能の導入など、様々な安全啓発の取組みを実施していると聞いている。

Osaka Metro としてマナーを遵守した利用者の利便性を向上するため、大阪市内全域に便利なパーソナルビリティを拡大し、e METRO アプリと連携を行うことに意義を見出しており、㈱Luup との業務提携においても、駅構内のサイネージ広告や車内広告の乗車マナーや安全啓発の広告を掲出することなど、安全啓発への取組みについても検討している。

- 取組みを進めてほしいが、㈱Luup に利用シェアの偏りが出ないように、Osaka Metro としての働きかけが必要と考える。これらの課題を強く意識しながら業務提携を進めていただきたい。

#### 【佐竹議員】

(路線バス小型化について)

- 路線バスの小型化の状況について、路線バスの仕様を満たした車両開発に想定以上の時間を要したため、運行開始が遅れているとのこと確認させていただいた。路線バス小型化実施に向け、時期の延長も含め、ご利用の市民の皆さまに混乱が生じないよう丁寧な説明や周知をお願いする。

(自動運転の推進について)

- 自動運転の実証中において、運転士の心理的負担も大きいように思う。引き続き、運転士に対する配慮等も行いながら実証実験を進めていただきたい。
- 運転士不足の解消なども踏まえ、バス事業の持続可能性を向上させるためにも、技術の推進と安定した人材確保を両輪として、運転士として自動運転バスに携わる魅力を高めていくことも大切だと感じている。交通手段の一つとして確立できる自動運転の推進について、引き続き取組みを進めていただきたい。

#### 【黒田議員】

(オンデマンドバスについて)

- オンデマンドバスの乗車場所は、既存バス停を活用するものと新たに専用で設けるものと二種類あると承知している。既に社会実験を行っている地域では、地域からの要望を受けて新たに乗降場所を設けるなど、柔軟に対応されてきたと伺っている。これから実験が始まる地域においても、是非地域の声をしっかり還元した乗降場所の設定を期待している。
- 事業計画に関しては、収支バランスが大切と考えるが、社会実証を繋げていくためにはコスト削減ありきで進むのではなく、いかに需要と供給のバランスを取っていくかが重要だと思う。利用しやすい事業を行っていくことで利用者が増え、結果として収支の安定につながると考えている。特に、地域の事情によっては、オンデマンドバスを楽しみに待っている方達が沢山いらっしゃるので、是非、需要と供給のバランスをしっかりと見てほしい。また、簡単に意見が寄せられるような仕組みを行うことで、常に市民の声を聴く姿勢がしっかりと市民にも伝わっていくと思う。こうした工夫・取組みも行い、是非、市内全域での実施に向けて取組みを行っていただきたい。

#### 【たけち議員】

(大阪城東部地区の 1.5 期開発について)

- 大阪の更なる発展に向けては、東西軸を意識した都市開発は重要であり、軸の結節点である拠点の「ヒガシ」においては、森之宮、大阪城東部地区の開発が何より重要である。大阪の「ヒガシ」の拠点づくりとして、経済、物価等、先行きが見通しにくい現状の中であっても、関係者等

の協議はもとより、最大限予測可能なシミュレーション等を踏まえた計画的な開発と共に、出来るだけ速やかな「まちびらき」の実現のために、引続き尽力していただきたい。

(空飛ぶクルマの現状と今後の展開について)

- 空飛ぶクルマは、ヘリコプター等の既存の航空機の基準が適用され、ヘリポートと同等のバーティポート設計が求められる。我々としても空飛ぶクルマの社会実装に向けて少しでも早くバーティポートの整備指針が見直されるよう、合理的な法整備を望むところである。

その一方で、実際に運航サービスを行うにあたっては、地域住民の理解が重要と考えているが、今後、どのような取り組みを行っていくのか。

- 空飛ぶクルマの社会実装のためには、地域住民の方々に空飛ぶクルマの安全性や利点などを理解して頂き、身近な乗り物として認識していただくこと、社会受容性の向上が非常に重要であると考えている。社会受容性の向上を目的として、大阪港バーティポートにてイベントを実施し、8月24日までに累計で約4,900名のお客さまにご来場いただき、大変ご好評をいただいている。皆様にご理解いただくため、今後もこのようなイベントを継続していきたい。

(民営化以降の事業運営に関する総括、所感について)

- どのような組織においても絶え間ない意識改革や、組織能力の向上が一番の課題だと考える。時間を要することもあると思うが、今後とも大阪の成長のために、企業価値を向上させていくためにも引続き尽力していただきたい。

(2026年度以降の事業運営、株式上場について)

- Osaka Metro Groupの財務情報の透明化はもとより、柔軟かつ機能的な、効果的な、あるいは効率的な経営体制の確立といった観点からも、改めて上場という観点について、社長の考えを聞きたい。
- 株式上場については、大阪市の方針次第であるが、経営幹部が経営責任の重さを十分に認識することが絶対的に必要で、更なる意識改革が必要である。上場できるだけ経営品質、経営体制、経営体質、成長戦略を意識して経営している。
- 今後、色々な計画等々を進めていくということであるが、物価高騰を含め先行きが見通しにくい昨今において、計画や開発の推進が困難な局面も多々あるかもしれないが、大阪の更なる経済成長にとって、市民、府民の大切な足ともいえる交通事業をはじめ、先進的な様々な取り組みは、大変重要なポジションにあるかと考える。引続き、夢を描けるような大阪の未来づくりに向けて、是非とも尽力していただきたい。

《公明党》

【小山議員】

(災害時の旅客案内について)

- 南海トラフ巨大地震がいつ起こるかわからない状況であり、また国も2030年に6,000万人の海外からの訪日観光客の目標を掲げている。国連の公用語はアラビア語・中国語・英語・フランス語・ロシア語・スペイン語と6か国語であり、これからの時代、災害対応として日本語・英語だけの案内では足りないと思うので、しっかりやっていただきたい。

(バスロケーションシステムについて)

- この2、3年地元の方から本当に相談が多いのがバスロケーションシステムの故障である。バ

スロケーションシステムの修理について、大阪市域全体に関わってくる問題でもあるので、しっかりと進めていただきたい。

(駅トイレの洋式化・美装化について)

- 民営化にあたり、2016年に駅のトイレの美装化をはじめ様々な要望をお願いしている。これをしっかりとやるということで民営化が進んだと認識しているので、トイレの洋式化・美装化をしっかりと進めていただきたい。

【岸本議員】

(南港ポートタウン内へのバス運行について)

- ここ数年特に地区内に在住の高齢者の方から、スーパー等へ行くのに足腰も弱り、自転車にも乗れないので、歩いていくしかないが、何回も休憩して行き帰りしている状況で、ポートタウンエリア内にバスを通してもらえたらすごく助かる、という声をたくさんいただいている。南港ポートタウンは全国でも稀なノーカーゾーンであり、様々な問題、課題があると認識しており、オンデマンドバス又は路線バスを通すとしても厳しい状況であると思うが、企業理念にあるチャレンジ精神を持って、前向きに地域住民の希望を叶えていただけるよう検討いただきたい。

【杉田議員】

(大阪シティバスについて)

- 大阪シティバスとして、黒字見込みである 2025 年度においても、万博関係の受託業務がなければ、路線バス等事業は大阪市からの補助金を含めても、赤字見込みとのことである。一方で、事業継続のため、運転士などの人材確保・定着のため、福利厚生等の充実、研修・育成などに取組む必要があり、相応の費用がかかる。

このように今後も経営環境が非常に厳しくなっていくことを踏まえると、万博終了後、大阪シティバスの経営が、急に良くなるとは思えない。対策は待ったなしの状況と言える。今後の大阪シティバスの経営について、大阪シティバスの社長自身がどのように考えているのか聞きたい。

- バス事業の経営環境は非常に厳しいが、モビリティミックスの中で、路線バスが本来担うべき適切な役割を見極め、重点投資を行っていくこと、要員不足が原因で新規事業が中々展開できなかったところを精力的に取り組んでいくことで、自らの力で事業者として成り立っていく姿を構築していきたい。

もう一つの観点として、グループ戦略としての施策、事業運営面で相互に連携することでシナジー効果を生み出す。Osaka Metro と共に一緒になって連携をしながら新しいことにチャレンジし、事業を永続的に発展させていきたい。

- Osaka Metro と連携を取りながら頑張っていただきたい。大阪シティバスは厳しい経営状況に陥っていると認識しているが、市民の足であるバスを守るため Osaka Metro としても何らかの形で支援していくことも必要だと考えるが、河井社長の考えを聞きたい。
- 大阪シティバスは Osaka Metro と一体だと考えている。ただ、法律上別会社であるため、税務面での制約があり、金銭的な直接支援は難しい。その中で経営改善への指導、収益向上への様々な足元の取り組みをしているところであるが、まだ経営努力できるところは沢山あると思っている。一方、大阪全域で発展し続けるには、現在の交通サービスを維持するだけでなく、さらに大きく発展させる、多種多様な移動ニーズに 365 日 24 時間対応できる交通網を構築していくことが必要だと強く思う。この中には、路線バスをどう組合せるのかも含んでいる。今後の経営環境

の厳しさは並大抵ではないため、将来を見据えて先手を打つこと、大きな変革が必要だと思う。そのためにオンデマンドバスと共に地上交通を統括し、Osaka Metro Group として一体的な合理化を図ると共に、市民の足としてよりきめ細かなサービス網を確立するよう地下鉄と連携した形でお客様を増やしていくことに取組む。発想を変え、取組み方を大きく変えて公共交通を進化させていくことで、何処よりも住み易い大阪を実現していきたい、それに貢献していきたいと強く思い、強い危機感と使命感を持ちながらやっている。

- 出来る限り Osaka Metro の力を借り、大阪シティバスが今後も永続的に続くように願っている。是非ご支援の程よろしくお願いする。

《自民党》

【木下議員】

(8月13日に発生した中央線の運行トラブルについて)

- 今回の件で、万博会場の各パビリオンが営業時間外にもかかわらず、万博来場者のため職員を残して、場所を提供するためパビリオンを開放してくれている。それぞれのパビリオンにお詫びの挨拶に行くのが筋ではないかと考える。また、地下鉄が止まらなければ万博来場者が熱中症を発症することもなかった。熱中症で救急搬送されているにも関わらず、Osaka Metro は水も配っていない。全ての責任は Osaka Metro のトラブルにある、ということを指摘しておく。
- 重く受け止めている。出来るだけの改善はやっていき、対応できることはやっていく。

《自国（くらし）》

【田中議員】

- エレベーター・エスカレーターについて、計画を持って整備を進めているとのことであるが、エレベーター2基目の設置条件を満たしているものの条件が整わず、設置できない駅については優先してエスカレーターを設置するなど、Osaka Metro は『世界に誇る便利で快適な地下空間』へと進化をすすめる、ということを掲げていることから、駅の利便性向上・魅力向上のために取り組んでいただきたい。
- オンデマンドバスの全市展開について、収支が厳しいという話があったが、莫大な赤字があるにも関わらず全市展開していくとなると、要望してきた議員としても無責任になってしまうので、具体的な数字が示せるなら教えてもらいたい。